体験活動を生かし心を育てる道徳の時間の指導の工夫

－　主にボランティア活動を生かして　－

三根町立三根中学校　教諭　西村　茂樹

要　　旨

道徳の時間においては，心に響く指導の工夫が求められており，その一方策として，様々な体験活動を有機的に関連させることが挙げられている。本研究では，主にボランティア活動を生かした道徳の時間の指導の在り方を研究し，喜びの共有化，道徳的価値の内面的自覚を図ることにより，道徳的実践力を培うことを目指した。そして，体験活動（主にボランティア活動）を想起させるような資料を用い，発問を工夫して生徒一人一人が体験の価値に改めて気付く授業を行うことにより，多くの生徒が，自己の内面への問い掛けを通して潜在するよき価値を見いだし，新たな体験に意欲をもって取り組もうとする態度を育成することができた。

＜キーワード＞　①体験活動　　②ボランティア活動　　③道徳的価値　　④道徳的実践力

1　主題設定の理由

本校は，以前から，募金活動や社会福祉施設訪問等のボランティア活動を通して生徒たちの豊かな心の育成を目指してきた。生徒たちは，様々な体験活動に参加する中で，喜びや成就感，発見などに出会ってきた。しかしながら，それらを仲間と共有したり余韻を味わったりすること，あるいは，その中にある道徳的価値に気付いたり，価値のもつ意味や大切さなどについて深く考えたりすることは少なく，実感を伴った潜在的な価値をより確かな道徳的心情や意欲，道徳的実践力へと高めることが十分にはできなかったように思われる。募金活動において，活動の継続はできても発展させることができず，むしろボランティアスピリットが年々薄れていっているようにさえ感じられるのは，その一例である。様々な体験活動は，単に体験だけに終わらせず，その中で得られた価値を道徳的に高めてこそ意義深いものとなるはずである。

そこで，体験活動（主としてボランティア活動）の感動を，道徳の時間で更に深めたり，また，道徳の時間での心の高まりを具体的な体験活動の中で実感したりすることができるような道徳の時間の指導の在り方を研究するため，本主題を設定した。

2　研究の目標

体験活動（主にボランティア活動）を生かした道徳の時間の指導の在り方を研究する。

3　研究の仮説

道徳の時間において，体験活動（主にボランティア活動）を想起させるような資料を用い，生徒一人一人が体験の価値に改めて気付く授業を行い，潜在的な道徳的価値をより確かなものとすれば，目的意識をもって意欲的に体験や実践を行う生徒が育つであろう。

4　研究の内容と方法

①　資料選択，学習指導過程及び発問の工夫の視点から手立てを探り，学習指導案を作成する。
②　検証授業（第１学年）による仮説検証を行う。
③　他の教育活動等との関連を考慮して主題を配列した『道徳の時間の年間指導計画』を作成する。
④　研究の成果と今後の課題を明らかにする。

5　研究の実際

(1)　道徳教育に必要な３つの体験

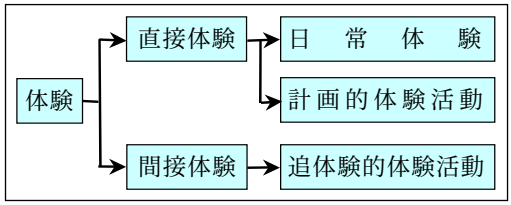

図１　道徳教育に必要な３つの体験

道徳の時間は，資料を一つの手掛かりとしながら，道徳的価値を主体的に体得し，道徳的心情・意欲を培い，道徳的実践力を育成する場である。そのためには，資料中の登場人物の立場や行動，考え方や心の動きなどを自分のこととしてどれだけ共感できるかが重要なポイントとなる。つまり，登場人物の気持ちを追体験することによって，日常生活で自分はどうすべきかという道徳的判断力を培っていくことが大切である。道徳教育には，図１で示した３つの体験が必要であり，追体験的体験活動を本当に深く行うためには，日常体験や計画的体験活動(ボランティア活動等)を充実させる必要がある。

(2)　ボランティア(Volunteer)活動

◇　自発性（自立性，自由意志）
◇　無償性（非営利性，無給性）
◇　公共性（公益性）
◇　先駆性（先進性，開発性）

図２　ボランティア活動の理念型

学校週５日制となり，学校，家庭，地域の緊密な連携による子どもの人格形成が求められているが，ボランティア活動はその鍵となる重要な役割を果たす活動として注目されている。

ボランティア活動で育てることができる道徳的な資質は多様であるが，その理念型としては，図２のようなものが共通の特徴とされている。内面に根ざした道徳性を育てる上で，ボランティア活動は，生徒のもつ道徳的な価値観（心情，判断力，意欲等）を揺り動かし，感性を磨き，豊かな心をはぐくむ教育力をもつものの一つであると考える。

(3)　研究の構想

ア　道徳の時間の主題設定

◇　第１学年の重点指導項目の一つに挙げられる価値
◇　ボランティア街頭募金活動で学ぶ道徳的資質の一つであると思われる価値

≪道徳の内容項目４－(5)≫
勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。

図３　道徳の時間の主題設定

本校では，福祉関係の啓発的体験活動，職場体験学習等多くの体験活動を行っているが，その中の一つに，カンボジアに新設された小児病院の運営資金援助を目的とするボランティア街頭募金活動がある。今年度も夏休みを利用して実施し，全校生徒の 32%(41 名)が自主的に参加した。けれども，一方では，年々ボランティアスピリットが薄れてきているという声も聞かれるようになってきた。このような現状は，街頭募金活動に限らず他の体験活動でも見え隠れする。

そこで，図４で表した構想の下，図３に示したような道徳の時間の主題を設定し，研究を進めることにした。

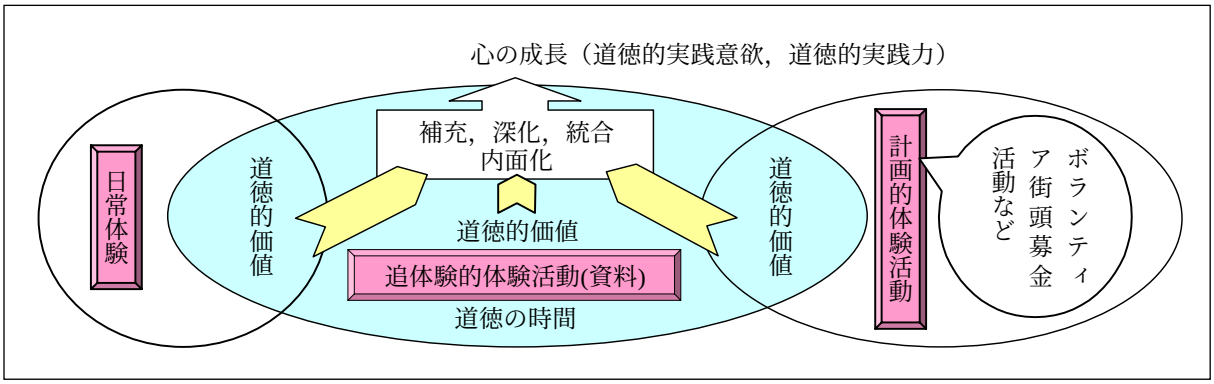

図４　研究の構想図

イ　実態調査から求められる道徳の時間の課題（勤労の尊さ・奉仕の精神にかかわる価値に関して）

物質的に豊かな社会の中で育っている生徒たちは，家庭で家事・家業を手伝う機会が少なく，事前調査では，家庭で働いた経験のない生徒が約 10%もいる。また，「所属集団の役に立っていると思うか」という質問に対しては，次頁図５に示したように，学年が上がるほど自分を否定的に見ている。より厳しく自己を見

つめているととらえることもできるが，「もっと役に立てるようになりたい」という強い願望があると考える。中学時代の生徒は，心の中では人の役に立ちたいと思いつつも，具体的にはどうしてよいか分からないこともあり，照れから一歩踏み出せずにいることも多い。そこで，自分も人の役に立てることを実感させ，人のために働くことは自己実現や自己表現をすることであるという実感をもたせることが大切であると思われる。

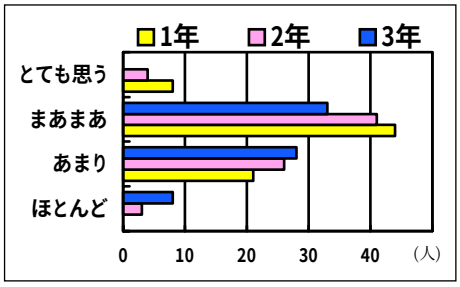

図５　所属集団の役に立っているか

(4)　体験活動（主としてボランティア活動）を道徳の時間の指導に生かすための工夫

ア　体験活動を生かす資料選択の視点（検証の視点Ⅰ）

①　体験活動で認識したことと道徳的価値との関連を図ることのできるもの。

②　生活の中で体験しやすいもの，インパクトを与えるもの，自分自身の問題として考えられるもの。

イ　体験活動を生かす指導展開・発問の工夫（検証の視点Ⅱ）

学習指導過程の中で，生徒一人一人に潜在するよさを見いだしていくために，体験活動を想起させる指導展開と発問を，表１のように工夫した。

表１　発問の主な役割と体験にかかわる型

	発問の主な役割	体験にかかわる発問の型
導入	○　授業の雰囲気づくり ○　資料への導入 ○　ねらいとする道徳的価値への方向付け	○　～したことがありますか。どうすることが多かったですか。 ○　～と思ったときはどんなときですか。（体験や事実を問う） ○　～をしていますか。その時どんな気持ちがしますか。
展開前段	○　資料の理解 ○　人間のもつ自然の情への意識付け ○　ねらいとする価値の把握(気付く) ○　ねらいとする価値の追求	（登場人物の心情・考え方・判断に対して） ○　自分はどう思いますか。 ○　自分だったらどうしますか。 ○　似たような体験がありませんか。その時どんな気持ちでしたか。
展開後段	○　ねらいとする価値に照らし，今までの自分を見つめる（内面的自覚） ・その時の気持ち，考え方を問う。 ・今，その事をどう思うかを問う。	○　～できなかったが，自分にも～のような心はないですか。 ○　これからの自分について心ひそかに思うことを書きましょう。 ○　今までは～だったけれど，今は～と思うことはありませんか。 ○　～について見たり聞いたりして，心打たれたことがありますか。
終末	○　学習の中で見いだされた，ねらいとする道徳的価値の確認 ○　心の中への定着 ○　生活への移行・発展へのつなぎ	○　今日の学習で，心に強く残ったことを書きましょう。 ○　資料中の主人公に手紙を書きましょう。 ○　今日の授業で，一番大切だと思ったことはどんなことですか。 ○　～とはどんなことですか。

ウ　道徳的価値の自覚を深め，実践意欲を高めるために（検証の視点Ⅲ）

実際に行われている生徒の価値ある行動や身近にできる具体的な事例を紹介して日常体験との関連付けを図り，実践化への意欲付けを行う。

(5)　検証授業（第１学年）

ア　検証授業の記録《資料名：「僕の仕事は便所そうじ」（出典：ポプラ社『僕の先生はカバだった』西山登志雄著)》

導　入

ねらいとする道徳的価値への方向付けを図り，資料を共感的にとらえる。

共通体験を想起し，個人の体験・考え方の紹介をする。　⇒【ねらいへの方向付け】

「積極的に働くことはほんの少し」＋「全くない」が 32%の現実。⇒【問題意識の明確化】

写真(19 歳の西山さんの作業着姿)から題名を想像する。　⇒【資料への興味・関心】

段階		教師と生徒の主な発問・発言（T：教師，S：生徒，★発問）
導入	T1	・先月 26 日，ボランティア街頭募金活動の集会がありました…。
	T2	・アンケートの集計結果を聞いてください。
	T3	★「働く」とは，どういうことだと思いますか。
	S1	・人のために動くこと。
	S2	・人のために役立つこと。
	T4	★この人のお仕事を想像してください。
	S3	・掃除をする人だと思う。
	S4	・洗濯をする人，クリーニング屋さんかな。
	T5	・著者の西山登志雄さんについて紹介します。

展　開　前　段

資料（追体験的体験）を通して，ねらいとする道徳的価値について共通の場で話し合う。

主人公の気持ちを考える中で，自分のこれまでの体験を基に，人間のもつ自然の情（弱さや醜さ，美しさ等）に目を向ける。　⇒【自然性の自覚】

「ショックだった」という主人公の心情の理由を，自分の生活やこれまでの体験を基に，できるだけ多く発表する。(道徳性の段階･レベルがよく表れる所)
⇒【価値の広がり】

改めて主人公の気持ちを考え，判断することにより，価値の広がりや深まりに気付く。
⇒【価値の広がり・価値の深まり】

ねらいとする道徳的価値の素晴らしさに気付く。
⇒【価値の深まり】

展　開　後　段

資料から離れ自分自身に目を向け，ねらいとする道徳的価値の内面的自覚を図る。

自分自身の生活体験や考え方を振り返って，自己を見つめる。　⇒【自己を見つめる】

生徒の価値ある行動や身近にできる具体的な事例を発表する。また，仲間の意見と比較しながら，これまでの自分を振り返り，自らの生き方を判断する。
⇒【価値の内面的自覚】

終　　末

道徳的価値についてまとめ，実践への内的動機付けを図り，実践意欲を高める。

話合いによって高まった価値に対する意識が継続できるように，日常体験との関連付けを図る。
⇒【日常体験との関連付け】

教師の説話を行い，生徒の望ましい成長を願う周りの人々の声(手紙)を紹介し，価値に対する実践意欲を高める。　⇒【実践意欲の高まり】

展開前段	T6	★（資料の範読後）どんな感想をもちましたか。
	S5	・まねできない。とてもすごいと思います。
	S6	・毎日３回も掃除することにとても感動しました。
	T7	★ひどく汚れた人間の便所を，毎日，何箇所も自分だけが掃除をする。僕はどんな気持ちですか。
	S7	・辛くてやめたい。
	S8	・僕だけがやらされている。嫌だ。
	T8	★何かそれに近いような経験はありませんか。
	S9	・先生に頼まれた部室掃除が汚くて嫌だった。
	S10	・自分も便所掃除が一番嫌だ。
	T9	★冬のある日，女の人が「…ありがたいわね」と言っているのが聞こえます。その時，なぜ頭をぶんなぐられたようにショックだったのでしょうか。
	S11	・いやだったけど，認めてもらって嬉しい。
	S12	・思ってもみなかった言葉だったから。
	S13	・ほめてもらって嬉しい。
	S14	・ショックだったのは，嬉し過ぎたから。
	S15	・自分の思っていたことと違う反応をされた。これで人が喜ぶとは思わなかった。
	S16	・一生懸命じゃなかったから。
	S17	・ありがたいと言われて恥ずかしい。
	T10	★自分はどの考えに一番近いですか。
	T11	★それ以来，世界一を目指して１日３回も掃除をします。そのときの僕はどんな気持ちですか。
	S18	・その気になってやると楽しい。
	S19	・もっと掃除して，いろんな人に喜んでもらおう。
	S20	・楽しくなったからやりがいがある。
	T12	・人に喜んでもらえる仕事が，自分の喜びになり，生きがいになるということかな。西山さんは「動物園での体験が僕の学校だった。人生にとって大切なことを全部学んだ」と言っておられます。
展開後段	T13	★資料を離れて，日ごろの自分について考えてください。みなさんの生活の中にも，このお話のように，初めは嫌だったけど，後でしてよかったなと思った体験がありませんか。
	S21	・６年生のとき，赤い羽根募金のボランティアをしました。とても寒くてきつかったけど，人のために尽くせて，よい体験だったと思いました。
	S22	・学校に飾る花を集めたとき，昼休みに仕事をしなければならなかったのですごく不満だったけど，きっと喜んでくれた人がいたと思うので，今後仕事をするときも頑張ろうと思いました。
	S23	・募金活動をしていくうちに，苦しんでいる子どもたちを助けてあげたいと強く思いました。
終末	T14	・今日学んだことは，毎日の生活の中で生かせそうですね。今の気持ちを大切にしてください。
	T15	・８月，ボランティア募金活動に参加し，カンボジアの子どもたちのために汗を流してくれた人がこのクラスにもいます。そんな君たちの活動を見たあるおじいさんが，学校に手紙を送ってくださいました。今日は，それを読んで終わりにしたいと思います。

イ　検証授業の分析と考察

(ｱ)　道徳の資料の有効性（検証の視点Ⅰ）

この資料は，不愉快で屈辱に満ちた思いで仕事に従事している著者の姿を前段で描き，後段は，働くことの尊さを理解して社会への奉仕の気持ちを深めていく内容となっている。著者の実体験を基にしており，勤労を嫌う生徒にはインパクトの強いストーリーである。

授業の導入では，著者の写真から仕事名を予想させた。話合いへの興味・関心を呼び起こすことができるよい資料だと感じた。また，本当の辛さや大変さが伝えにくい面はあったが，生徒の様子や表２のような感想から，生徒たちは実感を伴いながら資料に出会ったと考える。

表２　資料についての生徒の感想

この西山さんみたいに，便所掃除に誇りがもてることは素晴らしいことだと思いました。

今日の話を聞いて，前にあったなと思いました。僕も最初は嫌だと思ったけど，後で嬉しくなりました。嫌だったものをやってみたいです。

今までの自分を振り返ることができました。西山さんはすごくえらい人だなと思います。私も将来，こんな人になれたらいいと思います。

(ｲ)　学習指導過程における発問の工夫（検証の視点Ⅱ）

段階	発問	生徒の反応及びその考察
展開前段	Ｔ８	・すぐには発表者が出なかったので，「例えば…」という問い掛けをした。Ｓ９は，指名による回答である。「自分だったらどうしますか」という発問でもよかったかと思われる。
	Ｔ９	・「ショックだった」ことを強調して発問を行ったところ，「嬉しすぎたから」（Ｓ14）という意見が出てから，それまでとは少し価値観の違う意見（Ｓ15～17）が出てきた。話合いの中で，自分の奥にある高い価値観に少しずつ気付きだしたからだと思われる。 ・仕事に対する自分の姿勢が恥ずかしいという意見（Ｓ16,17）は，友達の発言に共感しつつ，ねらいとする道徳的価値に気付き，追求していることを示すものと思われる。
	Ｔ10	・４通りの意見を整理して確認した。ややもすると一部の生徒の発言で授業を進めてしまいがちなので，発言をまとめて価値観を分け，自分の考えを見つめさせた。それにより，生徒自身も自分の心の変容を知ることができたと考える。
	Ｔ11	・勤労の喜び，生きがい等につながる意見（Ｓ18～20）が自然に出てきた。
展開後段	Ｔ13	・１年生ということを考慮して，身近な体験を振り返りやすくするためこの発問にした。小学生のころも含めて，募金活動などの体験活動を振り返っている生徒が多く，どの生徒にも違和感なく，自然な形で自己を見つめることができる発問だったと思われる。 ６年生のときに赤い羽根募金のボランティア活動をしました。とっても寒くてきつかったけど，いろいろな人のために尽くせてとてもよい体験だった。（男子・道徳ノートより） 募金活動をしました。みんなが来る時間より早く来て準備するのは辛かったけど，運営委員会の呼び掛けに応じてたくさんの人が募金に協力してくれたのがとても嬉しかったし，やってよかったと思いました。私も，今先輩たちがやっているボランティア活動を見習って，２，３年生になっても協力してやってみたいです。（女子・道徳ノートより）

(ｳ)　道徳的価値の自覚の深まり・実践意欲の高まり（検証の視点Ⅲ）

①　表３は，生徒の感想の一部である。自己の内面への問い掛けを通して，募金活動などの体験活動を想起し，潜在するよき価値を見いだしていることが分かる。また，そのことが自分にできる範囲の仕事を誠実に成し遂げていこうとする新たな体験への意欲として表れている感想も多い。体験活動を生かした道徳の授業の大切さを感じる。

表３　生徒の授業後の感想

いやな仕事でも，人のためになるならもっと頑張れると改めて思った。（男子・道徳ノートより）

たった１つの便所掃除で，いろいろな事を学んだ気がしました。これから私は，多くの人のためにできる事を尽くしたいと思いました。（女子・道徳ノートより）

何事もあきらめずにやり続けて，最後になってよかったなと思えるようなことをしたい。（男子・道徳ノートより）

②　授業後の「意識の変容調査」の結果によると，「働くとは，どういうことだと思いますか」「何のために働くのだと思いますか」という質問に対して，100％に近い生徒が「人の役に立つことをすること」「人や社会のために貢献すること」と答えている。その回答が，「授業前の自分の考えから大きく変わった」と答えた生徒が８名いた。その中の一人の生徒は「今までいろんな事をしてきた中で，自分が変わったような気がします。これからは，みんなに役立つようなこと

をしたい」と回答している。また,「自分の考えが少し変わった気がする」生徒が 18 名,「考えは同じだが,その思いが強くなった」生徒が８名いた。授業後，時間を経ない調査であるため，このような極端な結果になったと思われるが，少なくともねらいとする道徳的価値「勤労の尊さや意義」について理解し，奉仕の精神や公共の福祉などにつながる心情や態度をはぐくむことができたのではないかと感じている。

(6) 年間指導計画の作成

計画においては，現在取り組んでいる体験活動（ボランティア活動，総合的な学習の時間，学校行事や地域行事での活動等）を道徳教育の視点から見直し，道徳の時間と様々な体験活動との有機的な関連を図ることを課題とした。作成に当たり，まず，生徒の実態や学年の発達段階，教師の願い等を考慮して決定した各学年の重点項目，資料のもつ季節感，体験活動の実施時期等を踏まえて主題を配列した。表４に，その主題を考えさせるのに最も適した資料を配列しているが，各学年共に，体験活動を生かした道徳の時間を少なくとも各学期に１回は展開できるように計画した。

表４　『第２学年の道徳年間指導計画』(一部抜粋)

学期	月	週	主題名	項目	重点	資料名	出典	関連のある主な体験活動
1	5	2	集団における役割	4-(1)	◎	明かりの下の燭台	学 宝 社	生徒総会 体育大会 あいさつ運動 先輩に学ぶ 職場体験学習 全校登山 修学旅行 老人養護施設訪問 東佐賀病院訪問　等
		3	強い意思	1-(2)		小さい勇気	自作資料	
2	10	1	礼儀	2-(1)	◎	ハート	あかつき	
		2	自然愛	3-(1)		あつい秋	学 宝 社	
		3	他に学ぶ広い心	2-(5)		良泉の門出	文教出版	
3	2	2	自主・責任	1-(3)	◎	裏庭での出来事	文 部 省	
		3	人間愛・思いやり	2-(2)		やさしさいっぱい	東京書籍	
	3	1	生命の尊さ	3-(2)		二人の子どもたちへ	学　　研	

6　研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア　体験活動で認識したことと道徳的価値との関連を図りやすい資料，生徒の生活体験に関連があり，自分自身の問題として考えられる資料を選択すれば，生徒が自然に価値について考えられることが分かった。

イ　道徳的価値の一般化を図る展開後段において，把握・追求してきた価値を生活の中で振り返る発問を行えば，学んだ価値を自分自身のこととして考えさせることができることが分かった。

ウ　道徳の時間において，体験活動と資料との関連を図り，体験を生かす発問を工夫するなどの手立てによって，多くの生徒が，自己の内面への問い掛けを通して潜在するよき価値を見いだし，新たな体験への意欲をもつことができた。体験活動を生かした道徳の時間の大切さを感じる。

(2) 今後の課題

ア　道徳の時間が，ややもすれば，体験活動の成功のための時間という構図になりがちなので，ねらいを見失うことのないよう，指導の工夫について今後も研究を続けていきたい。

イ　生徒の実態に即し，ねらいにずばり迫っていけるような自作資料の作成を試みたい。身近な体験や出来事を基に文章やＶＴＲなどにまとめた自作資料を開発することは大変意義があると思われる。

ウ　作成した年間指導計画の更なる充実を図りたい。また，体験活動と道徳の時間の主題をどう組み合わせれば効果的に道徳的価値の自覚を深めることができるかについても研究を深めていきたい。

《参考文献》

- 文部省　『中学校学習指導要領解説－道徳編－』　平成 11 年９月　文部省
- 押谷　由夫他著　『道徳の授業をどう創るか』　1999 年６月　明治図書
- 安澤　順一郎編著　『中学校道徳・内容項目の研究と実践４(4)』　1993 年９月　明治図書
- 廣瀬　久著　『発問の工夫』　1999 年４月　明治図書